

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット2)

Table with 2 columns: Item (事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日) and Value (0193500147, 株式会社健康会, グループホーム輪西, 室蘭市みゆき町1丁目7-9, 2019年11月8日).

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kenkokhai.jp

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Item (評価機関名, 所在地, 訪問調査日) and Value (企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部, 札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階, 令和元年12月9日).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GH輪西(理念 ここに住む皆さんが、我が家のようにくつろげて、そのひとらしく笑顔でくらするよう生活を支えます)職員会議、カンファレンスの冒頭で理念を読み合を、おこなうようにし理念の浸透、日々の支援で理念に基づいた考えを持って、支援できるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、室蘭市東室蘭輪西地区の市街地に位置し、2階建て2ユニットのグループホームである。JR輪西駅から徒歩圏内、近隣にドラッグストアなどの商店があり利便性のよい立地である。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Main evaluation table with 4 columns: Item, Group Achievement (取組の成果), Item, Group Achievement (取組の成果). Rows 56-62.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議・ユニット会議の議事録の冒頭に書き込み、読み上げを行う事で、理念の浸透やケアに繋げて行けるように取り組んでいます。また職員は理念携帯カードを持ち確認できるようにしています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	運営推進会議に福祉委員の方や民生委員の方々に参加して頂いています。またBBQには毎年参加してもらってつながりを持っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年は登別市の介護人材確保サービス対策事業の講師をしました。運営推進会議で来年度は茶話会や認知症の理解など発信の予定を立てたいと話しています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議の中で外部評価結果を報告し、年間目標の達成に努めています。スタッフ会議の中でも話し合っサービス向上に努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の案内を送り参加して頂き、スピーチロックゼロの取り組みををしている事を報告したり・苦情の報告や話あつた取組を報告しています。議事録の送付もしています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は防犯のため、夜9時から朝5時半まで鍵をかけています。それ以外は鍵はかけていません。当たり前の暮らしが出来るように取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	3か月に1回勉強会をして学んでいます。また不適切ケアが見つかった時は全体で話し合い改善に繋げています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護の研修がある時は職員に参加してもらっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族やご本人に面談して話し合う場を設けています。改訂等があった時は運営推進鍵で話をしています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	計画書にはご家族や本人の意見を聞き反映」しています。今年はアンケートが出来ていなかったのがご家族が意見を出しやすいようにエリア宛で集計する形をとって意見を引き出しやすいよう取り組む計画です。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	食事のメニューや食材などはアンケートを取って職員と話し合う場を設けています。今年の10月労働時間が7.5時間になった時は本部の部長が来て話し合いの場を設け、労働時間以外に意見を聞き答えてくれています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ラダー評価を年2回行い、個人面談を行っています。ケアの質の向上と給与に反映されています。希望休を取れていることで、ストレスの緩和にもつなげています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育委員会の方から年間計画あります。それに合わせて職員が研修に参加したり、テストして学んでいます。管理者から声をかけて研修に参加してもらう事もあります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	室蘭連絡協議会に加入し情報交換しています。研修に参加して情報交換の場を作っています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談してご本人やご家族とお話しし、要望や不安な事などないかを聞いて関係づくりに努めています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面談してご本人やご家族とお話して、不安な事や要望を聞き不安なく入所できるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学されて、話をして入所対象外であった方には、ケアマネと相談したり、ご家族と話し合い支援を提供するときもあります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	環境を変えたり、すぐ間に入るのではなく、見守ったり、待つことで利用者同士の話し合いで決まることもあります。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	計画書には、ご家族様の思いを聞いています。面会時には、様子を伝える事で、一緒に支える関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の馴染みの病室へ行ったり、昔の生徒さんが必ず年1回は訪ねて来れ関係を作っています。以前住んでいた近所の方も遊びに来てくれます。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席を変えたり、ソファの位置を変えて関係がうまくいくように努めています。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームに訪ねて来てくれたり。退所されても年1回BBQにボランティアで参加される親族の方もいます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアにとりくんでおり、Eシートを活用し本人の言葉を書き込み、困っている事、楽しみなことなど書いて書き込み、本人の本当の思い等を反映できるよう検討しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に生活歴や趣味、毎日やって頂いた事など本人やご家族に聞いて変わらない生活を送って頂けるようにしています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	就寝や起床時間は個々に合わせています。家事活動も出来る方に合わせて行っています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスで毎月モニタリングを行い課題が見つければ話し合い計画変更しています。全員が意見を言えるようにし担当も決めて全員が関わり、作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートの活用と生活シートに記録しています。引き継ぎも行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の帰りに、外食しに行ったり。欲しい物があるとされたときは一緒に買い物に行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行きつけの美容室に行っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの病院へご家族様と行くときは、病院受診記録をわたし先生に経過の報告を記入してお渡しし、結果を聞いて記入しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師がくるので、相談したり、助言をもらい、早期受診や対応につながっています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	要望があれば情報を提供したり、ワーカーに状況を確認しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族と話し合い、看取りになるときは24時間の病院に変更して看取りになったらカンファレンスを開き計画書を変更し、ドクターと一緒にカンファレンスもしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修は今年度受けていませんが、緊急対応は目に付くところに貼って対応できるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	10月今回水害の避難訓練で1Fが2Fまで避難して、そのあと防災の備品を統一して置き場所に設置。食料や水の確認もしました。		

#### IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声掛けは聞こえないように声をかけたりして、周りに聞こえないように配慮しています。ちゃん付けでは呼ぶこともありません。接遇のテストなどとして勉強しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る料理を最後まで作って頂いて作った達成感を味わってもらっています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	好きな音楽を聴いて過ごしてもらったり。花を活けたり、外の草むしりをしたいと言ってもらったり。個々に合わせられるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時着る服を決めていただいたり。昨夜に決めてもらえる方と、ご自分で選ぶかた個々に合わせています。車いすの方はホームに来る美容師にパーマをかけてもらっておしゃれできるように支援しています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々に合わせて調理、盛り付け、配膳、等職員と一緒に家事活動をしています。足の弱い方は職席で味噌汁をよそってもらった。座って行っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活シートに記入して、確認しています。食材が届くようになり、メニューも栄養士が作ってくれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は口腔ケアを行っています。ご家族の希望される方のみ週1回歯科衛生士のチェックと月1回の歯科医の訪問がありアドバイスや治療しています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	生活シートで排泄パターンをチェックしてトイレ誘導し、紙パンツから布パン変えた方もいます。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をチェックや野菜を多く取ってもらったり(味噌汁)して予防しています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	個々湯加減に合わせています。夜入浴希望の方は夜間入浴されています。入浴剤を入れて気分をリラックスできるよう支援しています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファで傾眠希望される方はソファで休んで頂いたり、寒がりの方は温度調整や掛物で調整して気持ち良く休んで頂けるように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬ボックスに1日分をセットし、うち蓋には、薬の名前、錠剤の数を書いています。個々のファイルに薬情をファイルし、いつでも確認できるように、なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生け花の資格を持っている方は週1回お花が届くので行けてもらって、やっていた事を継続して楽しんでいただいたり、好きな歌やテレビを見て頂いて気分転換して頂いています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	好きな畑にでて草むしりしたり、車いすで出かけられない方でも、暖かい時は外の空気を吸いに出たり、受診時の帰りに外で食事して帰ってきたて、外に出られる支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金を預かっていますが、お財布を持っていたりしている方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話したい訴えがある方は、電話してもらっています。また贈り物が届いた時は、こちらか声をかけて、電話してもらい関係づくりに支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節がわかるよう飾りつけをしたり、トイレと張り紙をしたりして、迷わず行ける工夫や、季節を感じる工夫をしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	奥にソファを置いて一人になれる空間づくりをしていますテレビの前にソファを置いて、くつろげる空間もついています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時にご家族に使い慣れている、椅子や家具を持ってきてもらい、家と変えられないようにすることで安心して生活してもらえるようにしています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりは廊下や歩くスペースについています。階段には滑り止めが設置されています。トイレも手すりがあり立ち上がり安いにされています。		